



## 魚は全部で何種類くらいいるの

### 魚は、種類もさまざま

魚は、5億年前ごろ先祖が地球上に現れました。それから、ずっと仲間をふやしてきて、水の中でくらす仲間の中では、いちばん発達した動物です。

すんでいる所も、池、小川、浅い海から深い海の底まで、さらに、南の暖かい海から、南極などの寒い所まで、さまざまです。水の中にいる魚のほとんどは、えらで呼吸していますが、ハイギョのように、肺で呼吸するものもあります。大部分は卵を産みますが、おなかの中で卵がかえって、外には子魚で生まれる卵たい性のものもあります。そればかりか、クロダイやコチのように、成長のとちゅうで、オスがメスに変わったり、メスがオスになったりする魚もいます。

### 2万種類以上いる

魚の中でいちばん種類が多いのは、タイ、サバ、アジ、ティラピアなどがふくまれるスズキ類で7000種、次に多いのが、ナマズ、ピラニア、コイ、フナの仲間が6200種です。次は少し数が減って、タラの仲間やサケ、イワシの仲間、どちらも1000種ぐらい、フグの仲間、ウナギの仲間がそれぞれ600種、それ以外の魚をあわせて、およそ2万3000種ぐらいが今知られている魚です。毎年、新しい種類が発見されていますので、さらにふえていくでしょう。

日本には、およそ3000種類の魚がいます。日本は、北から南まで、細長い島国で、気候も地形も変化が多く、南から暖かい海流の黒潮が流れてきているし、北からは冷たい寒流が流れこんでいます。そのため、こんなに魚の種類が多いと考えられています。(監修・安部 義孝)

